

# H21年度 地域療育等支援事業報告

地域連携情報室 高木彩子

## 【外来療育等支援事業～療育相談～】

障害を持つかたご本人あるいはご家族のかたのご相談に応じる事業です。今年度の実施は9件で、ご相談者は全てご家族でした。主に発達上のご心配についてのご相談に、医師、心理、STなどが応じました。

## 【施設支援一般指導事業】

地域で暮らす障害のあるかたを受け入れている通所施設の職員のかたのご相談に応じる事業です。

全体としては表①のとおりで延べ 132 件を実施、前年度より 12 件の増加となりました。利用された施設の数は 94 施設で、昨年より 5 施設増加しています。施設種別を割合でみると、保育園・幼稚園といった就学前機関が合わせて最も多いのは例年通りですが、小学校の利用数が前年比で 5.6%上がっています。月ごとの件数を昨年度と比較したものが表②です。夏休み(8月)に減少する以外は毎月 10 件前後の実施希望が入っていることが分かります。1施設あたりの年間利用回数の割合は表③のとおりで、限られた予算と人員のなかで多くの希望に応じるには、殆どの施設で 1 回の利用にとどめていただいているのが現実です。職種別に関わった数は表④のとおりで、心理職が対応しているものが多くなっています。

## 【訪問療育等指導事業】

家庭の場での訓練方法、姿勢保持、日常生活介助の工夫等のご相談に、専門職が家庭を訪問して応じる事業で、1 件のご相談に応じました。

## 【地域生活支援事業】

地域への啓発事業として、8月にボランティア講習会を開催しました。また、情報誌として「ネットワークしまだ」を 2 回発行しました。

4 つの事業のうちの本事業は 9 月末をもって東京都からの委託が終了となり、今後は市町村へ移行されることになってはいますが、現在のところ新しい動きはみられていません。

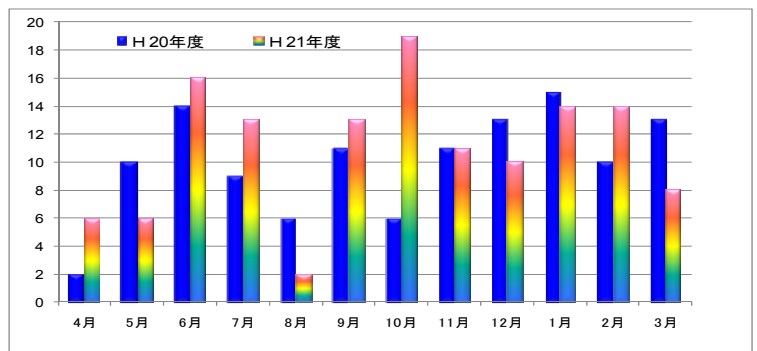
その他の 3 事業は平成 22 年度も継続して受託しています。

表① 全体の実施数

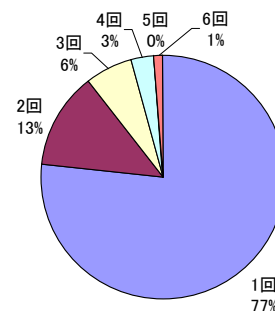
	多摩市		八王子市		町田市		稲城市		日野市		その他		合計	
	延	実	延	実	延	実	延	実	延	実	延	実	延	実
特別支援学校			1	1	2	1			1	1			4	3
保育園	25	11	16	14	1	1	2	2	9	7	1	1	54	36
幼稚園	6	5	8	6	2	2	1	1	3	2	1	1	21	17
小学校	7	5	22	16	7	4	5	4	6	3			47	32
中学校					1	1					1	1	2	2
障害児(者)機関	1	1							1	1			2	2
その他(学童舎)	1	1			1	1							2	2
合計	40	23	47	37	14	10	8	7	20	14	3	3	132	94

延…延べ実施件数 実…実施施設数

表② 月ごとの延べ実施件数(前年度比)



表③ 1施設あたりの年間利用回数の割合



表④ 職種別に関わった延べ数

医師	Ns	PT	OT	ST	心理	Co	その他
13	5	9	42	44	97	125	6

# 東京都障害者地域生活促進強化事業について

本事業は、東京都からの委託で、障害者自立支援法の重要課題である地域生活を促進するため、障害者の地域支援に関する研修事業として実施しました。前号で紹介した「摂食機能療法セミナー」もその一つで、当センターとしては、四事業を実施し、多くの方々が参加されました。この場をかりてお礼申し上げます。

地域連携情報室 齊藤美三男

## 発達支援センター 心理相談室講演会

心理判定員 清水宏子

心理相談室では、地域の皆さんと発達障害に関する理解を深めていくことを目的に、年一回講演会を実施しています。今年のテーマは「発達障害の子供の心を支える～家族で、地域でできること」でした。第1部では、目白大学人間学部教授の山崎晃資先生をお招きし、今回のテーマを演題に、発達障害の診断や特性、それぞれのライフステージに必要な支援について、最新の動向を交えお話いただきました。先生の豊富なご経験に基づく楽しくためになるお話でした。

第2部では参加者の皆様から寄せられた質問について話し合いました。講師の山崎先生に加え日野市の通級学級教諭の楠雅代先生と目白大学心理カウンセリングセンターの深山いずみ先生のお二方が参加し、心理相談室長・山本秀二の司会で進められました。質問に対して、それぞれの先生方がご経験を交えて支援のポイントなどについて分かりやすく具体的にお話をしてくださいました。

参加者の方々からは、「発達障害についての知識が整理された」「乳幼児から老年期まであきらめず支援することが大事と改めて認識した」などのご意見が寄せられ、大変有意義な講演会となりました。

## 平成21年度公開シンポジウム

第9回公開シンポジウム実行委員会 副委員長 有本潔

第9回公開シンポジウムは、新型インフルエンザの影響が懸念されましたが無事に実施ができました。参加者は全部で84名でした。

テーマは「施設の声から～障害者施設の行く末を考える～」として、廃止を宣言された障害者自立支援法の下で、実際の障害者の地域生活を支えている施設の運営の実態、生活や就労、地域との関係等を運営側と当事者とを交えて報告し、これからの施設と地域のあり方について考えました。

埼玉県立大学学長の佐藤進教授の「政権交代とこれからの障害者福祉・共生の地域社会づくりにおける施設の役割を考える」と題した基調講演では、施設から地域、保護から自立という流れと、「障害の有無にかかわらず国民が相互に人格と個性を尊重し安心して暮らすことのできる」地域社会の実現を目指す枠組みを大切に、障害者の枠を超えた「総合福祉法」が望ましい形と論じられました。専門家集団としての施設はこれまでの福祉実践を元にあるべき福祉を提言するとともに、地域と施設との役割分担も考えるべきとされました。

シンポジウムでは、3つの法人の代表と家族の代表の方々に、各々の立場からの様々な問題点を御報告いただきました。困難な状況の中、積極的な施設の取り組みが成果を生みつつあることを実感できました。

## 医療的ケアセミナー

医師 小沢浩

3月6日(土)に島田療育センターで、第1回多摩地区医療的ケアセミナーが開かれました。在宅で過ごす障害児者は、呼吸・摂食・消化器系など、さまざまな問題を抱えています。その問題について、みんなで一緒に考えていこう。そんな想いでセミナーを開催しました。障害児者に関わっている看護師・介護士・教職員・医師・歯科医師など、多くの方々が集まって下さいました。

1.「呼吸障害とその対応について」島田療育センター小児科小沢浩医師、2.「摂食について」都立府中療育センター小児科渥美総医師、3.「消化器系の特徴とその対応について」都立東大和療育センター小児科曾根翠医師、4.「重症心身障害児が地域で生活するために」東京小児療育病院小児科奈須康子医師の4名が、それぞれの想いを語りました。1週間前に予約を締め切らなければならないほどの盛況で、当日は109名の方が集まりました。さまざまな職種の方が、共に集い、勉強するセミナーはなかなかありません。是非続けてほしいという声が多く、これからも継続できるように新しい形を模索していきたいと思えます。

# 家族支援プロジェクト



言語聴覚士 武内典恵

去る3月7日、家族支援プロジェクトでは、きょうだい支援の第1線でご活躍の明星大学吉川かおり教授をお招きし、「きょうだいのことを考えよう」というテーマで勉強会・交流会を実施しました。私たちも日頃の臨床で、保護者の方から「きょうだいに障害があることをどのように伝えていけばよいのか」という悩みをよく耳にします。今回は、発達障害のお子さんをお持ちの保護者だけでなく、脳性まひなど肢体に障害を抱えるお子さんの保護者も参加され、年度最後のプロジェクトに相応しく障害の違いを超えた普遍性のあるテーマとして高い関心が集まりました。

前半の吉川教授の講演では、きょうだいが良いことも悪いことも含めて感情を率直に表現し、自分のことを第一に考えられるよう支援していくことの大切さが語られました。また、具体的でわかりやすい事例を通して、家族が困難を乗り越えながら健全に生活していくために、「障害」にふりまわされず、夫婦でコミュニケーションを大切にしながら、親自身もリフレッシュしていきましょと呼びかけられました。さらに、きょうだいの気持ちを調査したアンケートが紹介され、きょうだいたちの

68%が「障害のある兄弟姉妹がいてよかったことがある」と答えており、その理由として「障害者のすばらしさがかかる、人に優しくなれる」等があがっていました。

講演後の交流会では、4つの小グループに分かれ、親の会のお母様方の司会進行のもとで、保護者の方々が日常生活の中で困っていること、悩んでいることなど真摯な思いを1時間ほど語り合いました。参加された保護者からは、悩みを共有でき、他の方の意見やアドバイスをもらえて良かったという感想が寄せられました。「前向きな気持ちになれた」という嬉しい感想も見られました。

子育てが難しいといわれる時代ですが、いろいろな支援が行われるようになってきたと感じます。これからは当事者を含めて家族一人一人が持てる力を活かせるような支援が望まれます。1年間の家族支援プロジェクトの活動を通して、家庭が子どもたちにとって安心して暮らせる場所であり続けるために、大人ができる「あたりまえ」のことをもう一度、社会全体で考えなおす時が来ていると思います。1年間ご協力いただいた親の会のみなさま、助成して頂いた後援会のみなさま、様々な形でご協力いただいた地域の皆さまに、この場を借りて厚くお礼申し上げます。



## A

子どもは一度でも駄々をこねて欲しい物を買って貰ったりしてしまうと、「また駄々をこねれば買って貰えるんじゃないか」と思いこんでしまいがちです。ですから、『駄々をこねても絶対に欲しい物は手に入らない』ことを子どもに教える必要はありません。

実際の場面で駄々をこねてしまったら、まずは欲しい物のある場所から子どもを速やかに離すようにします。目の前に欲しい物があれば子どもはそれを欲して、ますますひどい癇癢を起こしてしまうことがあるからです。次に、欲しい物のある場所から離れた後は、子どもに話しかけたりせずに気持ちを落ち着かせるようにします。最後に、気持ちが落ち着いたら、『どうすれば欲しい物を買って貰えるか』を教えます。

買い物に行く度に欲しい物を買って与えていたら大変ですよ。ですから、買い物に行く前に「今日は欲しい物を一つだけ買ってあげるね」「今日は欲しい物は買えないけど、明日は買ってあげるね」などといった見通しを与えるようにしましょう。また、普段から「毎週～曜日に欲しい物を買ってあげるね」とカレンダーに印をつけるなど、視覚に訴えたりルール化するとより見通しが得やすくなります。子どもが見通しやルールを理解できるようになれば、次第に駄々をこねる行為は減ってくるはずですよ。(山本秀二)



## Q

買い物に行く度に欲しい物の前で  
駄々をこねるので困ります。  
どうすれば良いですか?

その2



集団活動の場面に入れないうちさんがいます。どのように対応したら良いのでしょうか?

初めての集団で、部屋に入れずお母様にしがみついているお子さんがよくいます。ここで何をやるのか、が全くわからないのですから不安なのは当然のことですね。そんなお子さんには少し離れた所でしばらく活動の様子を見てもらいましょう。流れがわかってくると参加出来ることがあります。また、いつでも入れるよう、集団の中にお子さんの場所(席など)を作っておくことも大切です。活動内容への不安が高い場合は、負担の少ない活動から「貼るだけやってみようか」と部分的な参加を誘ってみましょう。お子さんも参加したい気持ちはあります。参加出来なかったことが自信喪失へと繋がらないよう、何らかの形で「参加」を経験させてあげたいものです。

もう一つ、困っていても助けを求められず活動から外れてしまっているお子さんもいます。そんなお子さんに声をかけ、困り事を聞くのはとても大切です。しかし、それだけでは気付く大人がいなければお子さんはずっと困ったままで過ごすことになってしまいます。もしリーダーの先生が他にいれば『○○先生、ボクはどこに行くんですか?』って聞いてみよう』とか、お友だちに『△△ちゃん、教えて』って言うてみよう』など、質問の仕方・助けの



の求め方も教え、お子さん自身で聞けるような機会を作ってください。お子さんも自分の言葉で伝えて解決出来た、ということが経験出来れば大きな自信となり、次に繋げていきます。

お子さんが困っている場面は、困りの原因や対策を考える貴重な機会でもあります。いろいろ試しながらお子さんと一緒に「できた!」の経験を増やしていきましょう。(若松育子)

## 地域療育等支援事業のご案内

- ① 外来療育等支援事業 (療育相談)
  - 運動面やことばの発達、集団生活にうまくなじめないなどのご相談に応じます。
  - ① 窓口：医療相談課 TEL:042-374-2047(直)
- ② 施設支援一般指導事業
  - 発達のご心配や障害のある方を受け入れておられる地域施設、機関職員の方を対象に、ご相談に応じます。
- ③ 訪問療育等支援事業
  - 地域施設や家庭へ赴いて健康診査や介護指導などを行います。
  - ②③ 窓口：地域連携情報室 TEL:042-374-2101(直)
  - 費用は…①②③とも無料です。

## 今後のイベント案内

家族支援プロジェクト

### 講演会「希望ある明日に向かって、子どもたちの育ちを信じよう」 ～親の気持ちに寄り添って～

7/11(日)

13:00~15:00

田中康雄先生をお招きします。  
詳細は当センター ホームページをご覧ください。

<対象者>

発達障害、または発達に心配のあるお子さんの保護者、関係者の方  
<定員> 120名程度 定員になり次第、申し込みを締め切ります。

<場所> 島田療育センター 厚生棟

<参加費> : ひと家族1000円(資料代等)



これらの催しのお問い合わせは…  
地域連携情報室へどうぞ



TEL:042-374-2101 (問い合わせ時間 平日9:00~17:45)

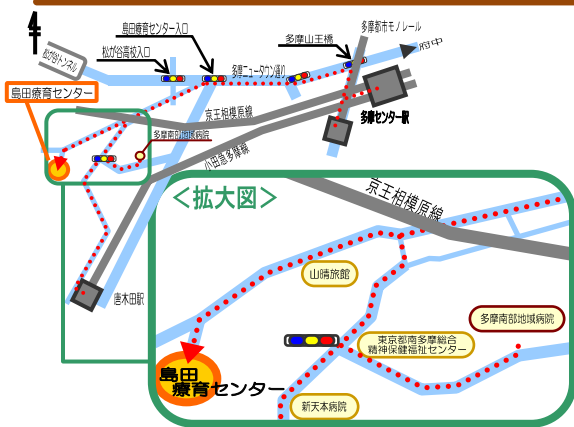
FAX:042-374-2089

※E-mail とURLは下記をご参照ください。

## 編集後記

6月6日は何の日かご存知ですか…? ロールケーキの日、だそうです。切り口が数字の“6”に似ているから、とのこと。新年度から何かと慌ただしく過ごした方も多いと思いますが、梅雨時期でもあり、なんだかエネルギーが湧いてこない。そんな時は少しのんびり、美味しいおやつでティータイム、充電するのも大切ですね。皆さんはどんな充電アイデアをお持ちでしょうか? 暑い夏に向かって、どうぞご自愛ください。(山崎)

編集：社会福祉法人 日本心身障害児協会  
島田療育センター 支援部 地域連携情報室  
住所：〒206-0036 東京都多摩市中沢 1-31-1  
電話：042-374-2071(代表)  
E-mail：info-room@shimada-ryoiku.or.jp  
URL：http://www.shimada-ryoiku.or.jp



<徒歩>  
多摩センター駅下車  
→約20分

<バス>  
多摩センター駅  
バスターミナル12番乗り場  
「南部地域病院」行き  
→約7分  
終点「南部地域病院」  
→下車 徒歩5分

